

かざ

ぐるま

風車

紀州の歴史と文化の風

文化財センター季刊情報誌【かざぐるま】

2024 秋号

106

公益財団法人 和歌山県文化財センター



東田中神社境内社旧竹房神社本殿竣工全景

特集
東田中神社境内社旧竹房神社本殿と西田中神社
羊宮神社本殿・八幡神社本殿の保存修理工事



西田中神社羊宮神社本殿・八幡神社本殿竣工全景

特集

東田中神社境内社旧竹房神社本殿と西田中神社 羊宮神社本殿の保存修理工事

田中荘と田中荘八社

田中荘は、平安期から戦国期に見える荘園名で、旧打田町域の南半部にありました。北は池田荘、西は岡田荘（現岩出市）、南は荒川荘（旧桃山町）に接していました。桃山時代の『慶長検地高目録』では下井坂・中井坂・畑野上・尾崎・花野・馬場・西大井・



『紀伊続風土記』田中荘 挿図

北大井・東大井と段・新田（旧桃山町）の諸村を下田中荘、上野・打田・辺土・赤尾・広野・黒土・竹房・窪・高野と勝神（旧粉河町）を上田中荘としています。江戸時代後期の『紀伊続風土記』はこの全域を田中荘としています。なお段・新田・高野・勝神の四村が紀ノ川南岸にあり、荒川荘と接しています。

田中荘には「田中荘八社」という産土神（うぶすなかみ）がありました。『紀伊続風土記』には「莊中地主神八社ありこれを田中の八社と称す何れも古は社殿壯麗に神田も多くあり」とあります。打田にあった山王権現社・若宮八幡宮（上ノ宮）・中ノ宮・鎮守宮、竹房の一ノ宮、中井阪の羊宮、尾崎の若宮八幡宮（下ノ宮）、上野の妙見社がそれにあたります。

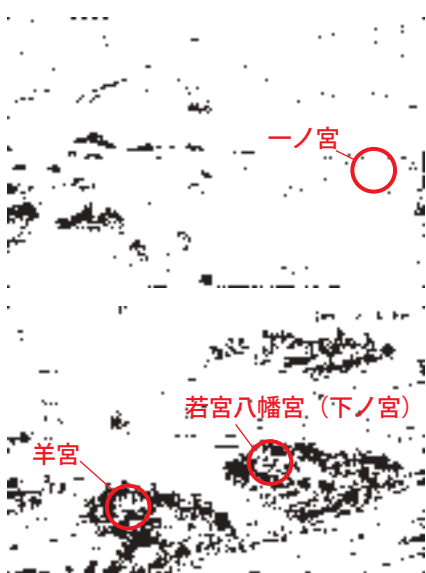
※文献と現在の地名では漢字表記が異なるところもあります。

東田中神社と西田中神社

旧打田町域だけでも150を超える社があったとされますが、明治時代には13社に合祀されます。このころまでには鎮守宮が若宮

八幡宮（上ノ宮）に合祀されています。昭和20・21年に田中荘八社は東西に二分され、山王権現へは、若宮八幡宮（上ノ宮）・中ノ宮・一ノ宮（竹房神社）が合祀され、社殿が移築されました。そして東田中神社と改名されました。羊宮境内に若宮八幡宮（下ノ宮）・妙見社と下井阪に所在した住吉神社を合祀し、西田中神社としました。この時、妙見社と住吉神社の社殿は移築されませんでした。その後、東田中神社境内にあった若宮八幡宮（上ノ宮）の社殿は昭和28年の台風で倒壊し、中ノ宮の社殿は昭和30年代の落雷により焼失しました。西田中神社の妙見神社・住吉神社は、その後元の社地に遷座されました。

現在は、東田中神社には延宝8年（一六八〇）建立の本殿と、境内社旧竹房神社本殿（一



紀伊国名所図会に見る一ノ宮（竹房神社）と若宮八幡宮（下ノ宮）・羊宮

ノ宮・県指定文化財)の2棟が残り、西田中神社には羊宮神社本殿・八幡神社本殿(ともに県指定文化財)が祀られています。

**東田中神社境内社旧竹房神社本殿
西田中神社羊宮神社本殿・八幡神社本殿**

【東田中神社の建物の概要】

旧竹房神社本殿は、一間社隅木入春日造の社殿で室町時代末期から桃山時代に建立され



写真1 上 旧竹房神社本殿の身舎正面上方
下 羊宮神社本殿の身舎正面上方

ました(表紙上)。身舎正面の意匠が特徴的で、頭貫を虹梁形とし、内法長押を枕捌に納めて鴨居との間に欄間を入れています。この納まりは西田中神社羊宮神社本殿にも共通するものです(写真1)。

旧竹房神社本殿には、向拝まわりの浜縁を囲う据高欄が配されています。以前の修理時写真や風蝕具合から前回の修理時に設けられたものだとわかります。蕨手の形状が大阪府下の類例に似ており、記録は残っていませんが部材に残っていた痕跡や大阪府内の類似した例をもとに製作されたと考えられます(写真2)。

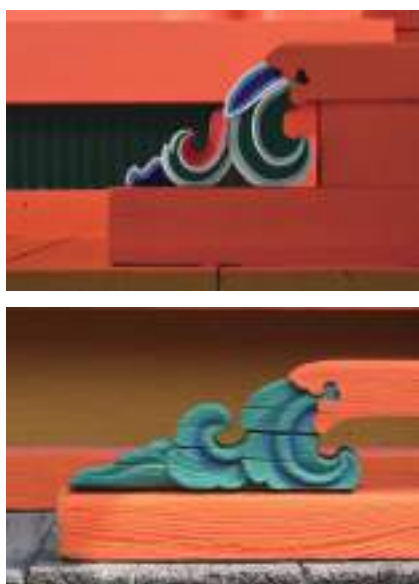


写真2 据高欄蕨手 上 旧竹房神社本殿
下 泉穴師神社本殿(泉大津市)

【西田中神社の建物の概要】

羊宮神社本殿(表紙下手前)は、一間社隅木入春日造の建物です。建立年代は細部手法か

ら見て、室町時代後期天文年間以前と思われる。木鼻、墓股、手挟等の彫刻が多くて出来もよく、室町後期の様相をよく伝えています。特に向拝頭貫木鼻は鯨の彫物は珍しく、現在他に類例はありません。また、向拝の手挟が丸彫と籠彫と左右異なるのも珍しいです。八幡神社本殿(表紙下奥)は高欄の擬宝珠に寛永12年(一六三五)の刻銘があり建立年代が明らかで、春日造の本殿が多い当地方にあつて、類例の少ない四座の二間社流造の社殿です。

【東田中神社の保存修理】

事業は令和4年度から2カ年で、屋根葺替・塗装修理の保存修理を行いました。まず旧檜皮葺の解体と屋根野地の補修を行い、檜皮を葺き直し、塗装の状態は縁廻りを中心に雨水による剥落や樹脂の白化が目立っていたため、縁廻りのほか正面千鳥破風の塗装工事、飾金具の補修等を実施しました。

【西田中神社の保存修理】

屋根の檜皮葺は、前回の解体修理から30年が経過し、平葺全面で劣化が進んでおり、箱棟廻り木部の腐朽も認められました。また、柱の金欄卷等の彩色や塗装に鱗状の剥離や剥落が生じていました。そのため、令和5年度と6年度で屋根葺替・塗装修理を中心とした保存修理工事を行いました。

【東田中神社の保管部材について】

事業期間中に、彫刻欄間（写真4）の他に脇障子彫刻（写真3）、大正14年に檜皮葺から銅板葺とされた修理棟札、ササラ桁等が残されていることを確認しました。特に脇障子彫刻は、現在の枠に近い寸法で、上框に大入れされていた風蝕差や下框に栓を入れて固定する構造が対応するので、こちらも社殿に取り付けられていた可能性を考えています。彫刻のモチーフは竹と虎です。脇障子を見ても塗装がみられないことから、かつては荒田神社本殿（岩出市）のように彫刻のみ素木であった可能性等を検討する余地があります。脇障子彫刻の古材は片側しか保管されていませんでした。



写真3 脇障子（古材）

【身舎正面の彫刻欄間】

旧竹房神社本殿の彫刻欄間は、現在は取り外され、中古材の横板を嵌めています。彫刻欄間については神社で別途保管されています。



写真4 旧竹房神社本殿の彫刻欄間（彫刻主題：菊）

間の仕様は、彫刻を連続させ、両端部を線形状に表現しています。線形状の表現は、県内では加太春日神社本殿（和歌山市）の身舎正面の鴨居と虹梁形頭貫間の竹の節付透彫欄間にも認められます。ちなみに、西田中神社羊宮神社本殿は、横板（平成6年修理時まで欠失）が嵌めてあり、シンプルな納まりとなっております。

東田中神社と西田中神社の彫刻

旧竹房神社本殿の墓股彫刻には「貝類」を主題とした彫刻がみられます（写真5）。この主題は欄間の意匠が似ている加太春日神社本殿でも認められ、羊宮神社本殿の手挟の彫刻主題にも共通しています。旧竹房神社本殿には「木の葉に筆」を主題とした木鼻があります。この主題は和歌山県内でいくつか確認され、長楽寺仏殿（有田川町）の裳階正面の手挟や十三神社本殿（紀美野町）の向拝臺股に用いられています。そのほか、前号のコラム記事でも取り上げましたが、

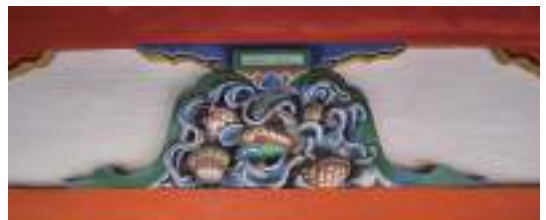


写真5 上 旧竹房神社の墓股（身舎西側面：貝類）
下 羊宮神社向拝手挟「貝類」（西側）



写真6 旧竹房神社本殿の身舎頭貫木鼻
上 木の葉に筆 下 葉に幼虫



「葉に幼虫」のモチーフがあしらわれた木鼻もあります（写真6）。

一方、羊宮神社本殿の向拝虹梁形頭貫の木鼻は鯨形に作りだし、尾鰭で肘木を受ける珍しい形式です。鯨の彫刻は、随筆『続成蟲樓随筆』(天沼俊一著、昭和21年11月発行)によると、大阪府堺市の法道寺多宝塔(室町前期・重葺文化財)に鯨の肘木がみられ、長野県飯山市にある白山神社本殿(室町中期・重要文化財)の向拝丸桁の先端に見られますが、木鼻にあるのは現在では羊宮神社本殿が唯一です(写真7)。「続成蟲樓随筆」の「鯨五種」「続和歌山紀行(昭和二十年五・六月)」に、現在焼失してしまった江戸時代前期(寛永頃)に建立された東田中神社境内の中ノ宮の社殿にも、鯨の木鼻があり、羊宮神社のものと同じデザインである、と記されています。



写真7 上 羊宮神社向拝木鼻 下 中ノ宮向拝木鼻
(中ノ宮写真は『続成蟲樓随筆』から転載)



写真8 八幡神社向拝の手挟

また、この随筆では八幡神社の向拝の手挟(写真8)が極めて優れている、とも書かれています。そのほか、羊宮神社、八幡神社の脇障子に「俱利伽羅龍王」の彫刻が施されています(写真9)、かつては東田中神社の中ノ宮の脇障子にも俱利伽羅龍王の彫刻があったと記されています。

おわりに

田中荘八社の昔の姿については、『打田村絵図』からは神社の元あった場所や今はなき若宮八幡宮(上ノ宮)の社殿が、現存する八幡神社本殿と同じ平入りの二間社であったことがわかります。『続成蟲樓随筆』によると中ノ宮の社殿は、鯨形の向拝木鼻以外にも羊宮とは向拝と身舎の繋ぎが海老虹梁であったことを除くと、



写真9 俱利伽羅龍王 左 羊宮神社 右 八幡神社

庇の屋根幅が身舎の屋根幅に比べて狭くなっているところまで、同じであったようです。また、『田中村郷土史』に鎮守宮は明治の頃に上ノ宮に合祀されていたと記されています。建物が彫刻等で繋がっていた事からもわかる様に、田中荘八社の社殿は関連していたと考えられます。幸いにも残された4棟の社殿(1棟は未指定)を、今後も次世代の人々が引き継いで行ってくれることを切に望んで止みません。

(東田中神社・大給 友樹、西田中神社と総括・寺本 就一)



和田岩坪遺跡隣接地で見つかった貝殻

令和4・5年度に和田岩坪遺跡の発掘調査を実施しましたが、『風車』103号参照)、隣接地の発掘調査対象外の工事現場で貝殻を含む地層があるのに気づき、場外搬出前に掘削土砂の一部について内容物を確認させていただきました。貝殻が含まれる地層は、現地表面(標高約2.3m)から約5m下の標高マイナス2.7m付近にあたる砂層で、堆積した時期はわかり



紀ノ川下流域の縄文時代前期頃の地形

日下雅義 1979 原図を基にした『和歌山市立博物館総合案内』(1994)の6頁右図を再トレース(一部加筆)

ませんが、この砂の中に貝殻が多量に含まれていました。しかし、土器などの人工物は確認できませんでしたので、貝塚ではなく、自然に堆積したものであることがわかりました。

後日、和歌山県立自然博物館の山名学芸員に貝類の鑑定をしてもらいました。その結果、二枚貝綱のハマグリ(73片)、マガキ(48片)、オキシジミ(4片)、ハイガイ(3片)、ウスハマグリ(1片)、アサリ(1片)、ヒメアサリ(1片)、ヤマトシジミ(1片)、カモノアシガキ(1片)、腹足綱のホソウミニナ(2片)、イボキサゴ(1片)、顎脚綱のドロフジツボ(1片)が確認されました。この中には、内湾に生息する貝類が多く認められるとともに、『和歌山県レッドデータブック2022』で県内絶滅種とされているハイガイが含まれていました。

和歌山市域ではこれまで吉礼貝塚や瀬宜貝塚、岡崎縄文遺跡、鳴神貝塚などで縄文時代の貝塚が発掘調査されています。これらの貝塚では、ハマグリやハイガイ、マガキなどが多く確認されており、今回発見された貝類との共通性がうかがえます。和田岩坪遺跡周辺

は、今より海水面が5〜6mほど高かったといわれる「縄文海進」の時期にあたる縄文時代前期頃には内湾であったと考えられています。今回、貝殻が発見されたことからこの周辺が内湾であった時期があったことが改めて確認されました。(仲原 知之)

〈参考文献〉日下雅義一九七九「紀伊湊と吹上浜」

『和歌山の研究 第一巻 地質・考古篇』



発見した貝殻

今年、和歌山市出身の作家として知られる有吉佐和子氏の没後40年にあたります。有吉氏は、故郷である和歌山を舞台とした『紀ノ川』『有田川』『日高川』の三部作をはじめ、数々の文学作品を残されています。昭和42年には本県の風土や人情などを広く紹介した功績が称えられ、和歌山県文化賞を受賞されています。また、同年に発表し、ベストセラーとなった『華岡青洲の妻』は、江戸時代に世界初の全身麻酔による乳がん摘出手術を成功させた医師である、華岡青洲に献身する妻の加恵と姑の於継の愛憎を描いた作品として有名であり、第6回女流文学賞を受賞しています。この作品の序盤では、加恵の出身である妹背家について、「通称を名手本陣と呼ばれるほどの家柄だった」と紹介し、名手本陣を舞台とした加恵の幼少期の生活についても描かれています。

この名手本陣は、紀の川市名手市場の「旧名手本陣妹背家住宅」として、主屋と米蔵・南倉の三棟が昭和44年に重要文化財、翌年には妹背家住宅を含む敷地全体が史跡「旧名手宿本陣」と国の文化財に指定されています。



旧名手本陣妹背家住宅 主屋

現在の主屋は、享保3年(一七一八)に家族の暮らす居室部が建てられ、延享3年(一七四六)に藩主の休息の際に用いられる座敷部が増築されています。この頃から、主屋が本陣として使用されている間は、妹背家の人々は南倉に移って住んだといわれており、南倉には床の間が付き、畳が敷き込めるように畳寄せも入れられています。余談になりますが、今回の執筆に至るまで、私は有吉氏の作品についてさほど知識がありませんでした。「読書の秋」という絶好の機会に有吉氏の作品を読破したいと思います。(野田 達志)

きのくに歴史小話

～きのくにれきしこぼなし～

現在、有田郡と呼ばれる有田川流域一帯は、奈良時代には「阿提郡」や「安諦郡」と呼ばれていました。大同元年(八〇六)、平城天皇の諱が「安殿」であることから「在田郡」に改められたことが知られていますが、「日本霊異記」では上巻第34縁などに「安諦郡」の記載が見られます。上巻第34「絹の衣を盗ましめ妙見菩薩に帰し願ひて其の絹の衣を修得せし縁」では安諦郡にあった「総部寺」という寺の前にあった家で絹の衣が盗まれ、妙見菩薩に祈ったところ盗人により市に売られたその衣が激しい風によって鹿の角に引つ掛かり、その鹿が盗まれた家まで行って衣を返し、そのまま天に帰ったと述べています。



写真1 田殿廃寺の軒丸瓦 (有田川町教育委員会提供)

この「総部寺」の詳細についてはよくわかっておらず、また、現在の有田郡で奈良時代まで創建がさかのぼる古代寺院は有田川右岸に所在する田殿廃寺しか分かっていません。それだけで「総部寺」と田殿廃寺と関連づけることはできませんが、この田殿廃寺で採集された瓦は、『風車』101号のコラムでも紹介した佐野寺跡(かつらぎ町)で出土した瓦とよく似ています。瓦がよく似ている「佐野寺跡」と「田殿廃寺」、「日本霊異記」に名前が残る「狭屋寺」と「総部寺」、この2つの間には、まだ私たちが知らない古代寺院の謎があるのでしょうか…?

(濱崎 範子)

催し物案内

和歌山県内の文化財関係イベント情報（2024年秋～2024年冬）

和歌山県立紀伊風土記の丘

- 特別展「数多の古墳を築く―群集墳からよむ古墳時代―」
2024年10月5日（土）～2024年12月8日（日）
- 特別展シンポジウム
2024年11月17日（日）
- 「関連講座」 ①2024年10月13日（日） ②2024年10月20日（日） ③2024年11月3日（日）
- 風土記まつり
2024年10月27日（日）

和歌山県立博物館

- 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「聖地巡礼―熊野と高野―」
第Ⅲ期「人・道・祈り―紀伊路・伊勢路・大辺路をゆく―」
2024年10月12日（土）～2024年11月24日（日）
第Ⅳ期「熊野信仰の美と荘厳―熊野速玉大社の神像と古神宝―」
2024年12月7日（土）～2025年1月19日（日）

和歌山市立博物館

- 特別展「和歌の聖地・和歌の浦 誕生千三百年記念 聖武天皇と紀伊国」
2024年10月5日（土）～2024年11月24日（日）
- 企画展「大きな絵」
2024年12月7日（土）～2024年12月28日（土）

※掲載内容は変更される可能性があります。詳細は各施設へお問い合わせください。

目次

- 1 表紙
- 2 特集「東田中神社境内社旧竹房神社本殿と西田中神社羊宮神社本殿・八幡神社本殿の保存修理工事」
- 6 埋蔵文化財課 短信「和田岩坪遺跡隣接地で見つかった貝殻」
- 7 きのくに歴史小話「文化財建造物課 和歌山の建物とゆかりの人物（5）」
「埋蔵文化財課 日本霊異記と和歌山（5）」
- 8 催し物案内

風車106（2024・秋号）

令和6年9月30日

（公財）和歌山県文化財センター

URL <http://www.wabunse.or.jp/>

（公財）和歌山県文化財センター

【事務局】 〒640-8301 和歌山市岩橋1263番地の1
TEL 073-472-3710 FAX 073-474-2270
kanri-2@wabunse.or.jp

インスタグラム始めました。

ユーザーネーム：**wabunse_official**